超高齢社会を支える福祉の実装研究

― ソーシャルワークと家族関係学からのアプローチ ―

家政学部　生活環境学科 教授
小島　みさお
KOJIMA Misao

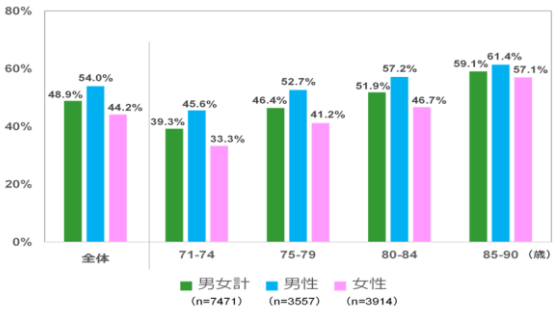


■専門領域：社会福祉学(高齢者福祉・地域福祉）、家族関係学
■キーワード：家族と介護、排泄ケア支援、尿失禁予防とケア、介護とジェンダー、排泄介護負担、高齢者の社会参加、フレイル予防、通いの場、福祉用具
■研究者情報：https://researchmap.jp/misaokojima

研究活動紹介

排尿・排泄ケアの男女別の意識と実態

排泄ケアや尿失禁対応における性差（男性特有の傾向等）に着目し、その意識と実態を調査・分析しています。増加する男性家族介護者や認知症高齢者の抱える困難をふまえ、地域在住高齢者と家族のQOL向上と介護負担軽減に資する実践的な知見の創出を目指しています。



排尿障害による日常生活制限を有する高齢者の発現率(性・年齢別階級)

高齢者の社会的孤立予防と「通いの場」の創出

高齢者の社会的孤立を防ぐため、地域包括支援センターや住民と協働したアクションリサーチを展開しています。大都市圏の団地における男性高齢者を対象とし、フレイル予防に繋がる多様な「通いの場」の創出プロセスを明らかにしました。研究成果を実際の地域ネットワーク構築や自治体の介護予防事業への社会実装として還元しています。持続可能かつ温かみのある地域支え合いの仕組みづくりに貢献しています。





実学へのつながり・産業界へのメッセージなど

企業での生活者研究および公的研究機関での実装研究の経験をベースに、福祉現場の課題解決に挑みます。産官学の強力なパートナーシップのもと、「誰ひとり孤立させない」持続可能なケアシステムや地域福祉の仕組みをデザインします。【主な実践・社会還元】2026年日本認知症ケア学会における自主企画シンポジウムの主導（約600名規模）、専門職・市民に向けた実用的な冊子の作成・配布

論文・学会発表など

・「地域在住高齢者における軽度尿失禁に関する相談意向」『厚生の指標』68(3)、2021年
・「男性家族介護者による排泄ケアの実態と意識：首都圏で暮らす男性家族介護者の語りから」『シニア社会学会誌エイジレスフォーラム』21号、2023年
・「専門職から見た男性家族介護者の排泄介護の実態～福祉用具専門相談員と介護支援専門員のアンケート調査より～」『環境福祉学』10(1)、2025年
・「認知症を有する在宅要介護高齢者の紙おむつ選定支援における意識と実態」『環境福祉学』10(1)、2025年
・「大都市団地における男性高齢者の孤立予防に向けた「通いの場」創出プロセス：地域包括支援センターと住民協働によるアクションリサーチ」『老年社会科学』47（4）、2026年
・Association of daily life limitation due to urinary problems with social participation and health indicators among older adults: a cross sectional study. IAGG Asia,2023.